

「和文・中文論文」「欧文論文」の場合の文字・語数カウント方法について

論文執筆にあたって、文字数の確認はMicrosoft Wordの「校閲」⇒『文字カウント』機能を使い、「和文・中文」「欧文」に従って下記の計算式に当てはめて各自でご確認ください。


$$\textcircled{2} + \frac{\textcircled{1} - \textcircled{2}}{2}$$
$$\textcircled{2}12,959 + (\textcircled{1}16,119 - \textcircled{2}12,959) \div 2 = 14,539 \text{ 字}$$

＜字数＞でカウントする場合

①文字数(スペースを含めない) + ②全角文字 + 半角カタカナの数

③単語数 のカウント数そのまま

まずはブルスト自身が映画をどのように認識していたかを確認しておこう。周知の通り、ブルストは映画についておよそ芳しい意見は持っていなかった。そもそも長大な『失われた時を求めて』の全編を通じて、文学、美術、音楽、演劇などの諸芸術が盛んに論じられる中で、映画への言及がなされるのはわずか3回にすぎない。最初は第2編『花咲く乙女たちのかげに』の第1部「スワン夫人をめぐる」の末尾で、大通りを散歩するオデットに乗馬を楽しむ紳士

「まるでギャロップで駆けまくるさまを映画に撮ったされた時」においてであ

手がレストランで夕食を意に消されてしまう情景場内のような謎めいた暗るのであった」²と語られなく、また前者についてはイブリッジによる「クロ

もしばしば指摘され、本稿それなりに興味深い記述ではある。しかし、ブルストが映画について抱いていた認識が

「まるでギャロップで駆けまくる最終の第7編『見出しのパリでサン・ジュールと語りとなり、店内の明かりが不確か、映画が上映される劇に会食客の男女が駆けつけた隠喩の例には違いないようにマレーやマイ、後者については、これ告げつけられている点で、

統計:	
ページ数	10
単語数	13,637
文字数(スペースを含めない)	16,119
文字数(スペースを含める)	16,730
段落数	52
行数	391
半角英数の単語数	678
全角文字 + 半角カタカナの数	12,959

☒ テキスト ボックス、脚注、文末脚注を含める(E)
閉じる